

手術室で活躍する放射線装置

手術室での放射線装置の役割は、

X線撮影および**透視**を用いた**画像提供による手術支援**です。

術者が目視出来ない部分を画像で描出します。

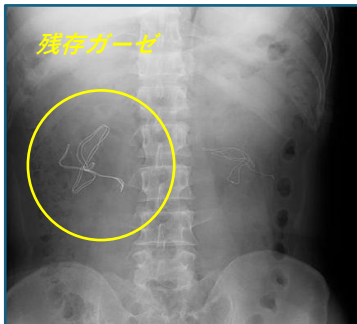
X線撮影

患者の状態確認、チューブなど体内留置物の位置確認、手術で使用したガーゼ・針など手術器材等の体内残存がない事の確認を目的としており、**安全に手術を完結するために必要不可欠**です。

手術室完備のポータブルX線撮影装置で撮影直後に画像確認が行えます。



MobileArt Evolution (SHIMADZU)



術後体内残存ガーゼ (ガーゼメーカー提供)

X線透視

固定具の刺入やカテーテル挿入をアシストしています。

術中、透視で骨の状態や位置、手術器具などを確認することで

術者の視界確保のための切開部分を小さくすることができます。

これにより患者さんの**負担は少なく、術後の早期回復が期待**されます。

当院手術室には4台の移動式X線透視装置が完備されています。



足関節手術 (整形外科使用)



手指骨手術 (形成外科使用)



ペースメーカー植込み手術 (循環器科使用)



New! OEC Elite (GE) ※ ステンントグラフト内挿術対応



OPE SCOPE ACTENO (SHIMADZU) ×2台



OEC One CFD (GE)

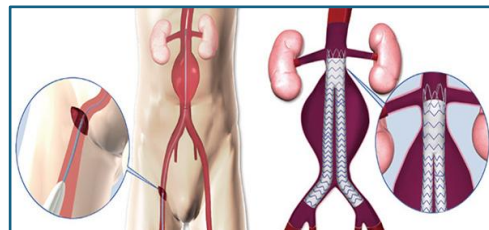
ハイブリッド手術

ハイブリッド手術とは**外科手術**と**カテーテル治療 (IVR)**を同一空間で同時、または連続的に行う治療です。**身体への負担 (低侵襲)**が少なく、**安全性と治療精度が高い**のが最大の特徴です。

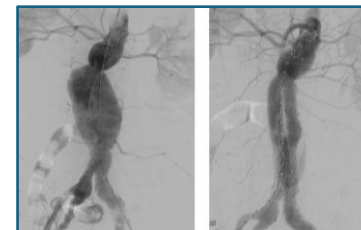
近年、ハイブリッド手術室の普及により、**心・大血管領域におけるカテーテルを用いた低侵襲手術**として**大動脈ステントグラフト内挿術**や**経皮的動脈弁置換術(TAVI)**といった高度先端医療が注目されています。当院でも血管撮影対応の移動型Cアーム装置 (GE, OEC Elite) 導入により

心臓血管外科による大動脈ステントグラフト内挿術の提供を間もなく開始予定です。

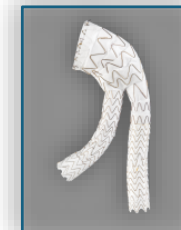
また、新病院では富士医療圏で初となるハイブリッド手術室の完備も目玉企画として準備を進めています。これにより、一部の疾患においては高齢者など**開胸手術がハイリスクとなる患者さまにも低侵襲な手術を提供**できます。



腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術イメージ図



腹部大動脈瘤 ステントグラフト内挿術後



ステントグラフト

ハイブリッド手術室導入で期待される効果

症例	方法	効果
大動脈解離 / 瘤破裂	ステントグラフトを使用したカテーテル手術	救命率向上
交通外傷や危機的産科出血	IVRで止血しながらの手術	救命率向上
出血リスクの高い予定手術	IVRで血流をコントロール下での手術	安全性向上
複雑な手術	術中の血管造影やCT画像での確認	精度向上
大動脈弁狭窄症 / 僧帽弁逆流症	TAVI / MitraClip	侵襲度低下



Hybrid OPE室 イメージ図①



Hybrid OPE室 イメージ図②



TAVI

手術室では**安全に手術目的を達成**できるように**多職種チーム**で協働します。診療放射線技師は放射線機器や画像のエキスパートとして手術をサポートするため参加します。そのため疾患や手術内容、手順の理解に努め、術者に適切なタイミングで必要な支援が出来るよう心がけています。

今回はリハビリテーション科です!!